

(個別研修) 鳥居いづみ

**研修テーマ：知的障害を持つ人が地域で暮らすための環境整備とサービス提供について
－サービス提供分野の垣根を超えた連携、地域とのつながり－**

研修地：ドイツ ヘッセン州 ヘルプシュタイン・シュトックハウゼン、アルテンシュリーフ

研修施設：Gemeinschaft Altenschlirf (人智学共同体、障害者支援団体)

研修日：5月15日～6月20日

【蜜蝋ろうそく部門 (Kerzenwerkstatt)】(5月30日～6月3日)

商品内容：蜜蝋ろうそく各種、リップクリーム、ハンドクリーム

設備等：作業室、静養室兼キッチン、乾燥室、倉庫、事務室

○基本のろうそくのつくり方

- ① 蝋をとかす (固形の蜜蝋は、6時間程度でとける)
電気式の入れ物を使用
- ② 芯をサイズごとに切る (治具使用)
- ③ 曲がり防止のための重り (ステンレスクリップ) を芯に挟む
- ④ 蝋をつける (時間をおいて何度も繰り返す)
- ⑤ 蝋の重みで曲がらなくなったら芯を外す
- ⑥ 既定の3分の2くらいの太さになったら長さを測って切り、底を金具と釘で止める
- ⑦ 既定の太さになるまで蝋をつける
- ⑧ 包丁で余分な長さを切り落とす
- ⑨ 3か月以上乾燥させる

○その他の作業 (コワーカー：職員)

- ① 蝋の染色 (顔料使用)
- ② 化粧品づくり
- ③ 飾りろうそくづくり 等

○その他の作業 (障害のある人)

- ① 蝋はがし
(蝋を溶かしたバケツは、冷えると固まったろうがこびりついているのでそれを削り落とす)
- ② 包装
蝋磨き (蜜蝋100%のろうそくは、時間がたつと膜がはったようになるため、販売前に磨く)



②ろうそくの芯を切るための治具 (手前)



③芯に重りをつけている



← 蠟を1回つけた後

蠟を3分の2程度の太さまでつけ、下部に金具を付けた後

→



20本のろうそくを数えるための治具



サイズやカラーが色とりどりの商品

- 材料費が高いため、蜜蝋はなるべく無駄にしないように、切り落としたところも色別に溶かして固め、再利用する。
- 高い音が苦手な人、介助を要する人等、繊細な感覚を持つ人が多いが、それぞれが自分のできごとで参加できるよう作業配分を工夫している（例：切った芯を箱に入れる、包装係にろうそくを渡す）
- 共同体の作業はもともと外作業が中心であったが、高齢化や障害の多様化、重度化により、中での作業を作る必要があり、国内外を視察して蜜蝋ろうそく製作にした。近隣施設でも製作していたため、違いを出すために染色したものも販売している。
- 完成したろうそくは、作業室、Altenschlirf 村の売店、Stockhausen 村のスーパー tegut...（共同体が運営）で販売されている。